

新技術の活用、開発を促進

九州整備局 初会合で5件審議



九州地方整備局は、公共工事への新技術の積極的な活用に向け、産官学のメンバーで構成する「新技術活用評価委員会」を設置。6月30日に福岡市内で初会合を開いた。写真。会合では委員長に高橋和雄長崎大学教授を選出するとともに、民間から申請のあった新技術5件を審議。いずれも技術内容に問題はないと評価した。各整備局および北海道開発局で設置する同委員会は、四国地方整備局が同日に初会合を開いているが、審議は今回が全国でも初めて。

国土交通省では本年度「取り組んでおり、評価委」は、軟弱地盤処理工、深層混合処理工、薬液注入工を担当。環境対策や調査試験など比較的地域性を問わない工種について共同評価する。また、対策工の水質保全や調査試験工の地質調査については特に九州が重点的に受け持つ。

「評価試行方式」(整備局、建設業団体の代表、整備局の幹部ら有識者3人で構成。各四半期ごとに開催する。民間から申請のあった新技術について、事前評価を行った上で試行が妥当と判断すれば試行計画を策定。これに基づき実際の現場で試行し、試行結果を事後評価する。評価結果は新技術情報提供システム(NETIS)に掲載し、一般に公表する。

地域の特性も考慮し、各整備局ごとの委員会で工種を分担して評価することにしており、九州で

九州

九州支社
〒810-0001
福岡市中央区天神1丁目14番15号(三栄ビル)
☎ 092-741-4605
FAX 092-741-1732

学識経験者で構成していた従来の技術活用委員会(同日付で廃止)が意見を述べる程度だったのに対し、評価委員会では

新技術に対する評価まで踏み込む。
産官学の有識者がおののおの立場から信頼性や施工性、安全性、確実性を評価することで積極的な新技術の活用や民間の開発意欲を促す。また、実績のない新技術でも安全性・耐久性に問題がなければ現場での試行が可能になるほか、従来1年程度かかっていた申請から試行・評価までの期間が半分以下まで短縮されるなどのメリットもある。

初会合では、▽軟弱地盤処理工「MITTS工法(CMSシステム)」

(富士建)▽同「ダブルミキシング工法」(ダブルミキシング工法研究会)▽同「超軟弱土固化処理工法」(マッドミキサーM-I型) (セリタ建設)▽同「同II型」(同)▽法面工「法面緑化工」(土壌菌工法) (藤武産業)の5技術を審議。一部データ不足も指摘されたが、いずれも技術内容については問題がないと評価した。今回の評価技術についてはすでに現場で施工実績があり、試行の必要がないため、今後、これらの技術が使われればその結果を委員会が事後評価する。